

# 2021 年度 事業報告

## 活動総括

2021年度も新型コロナウイルス禍は収束せず、社会に閉塞感が溢れる中、KFC 事業にも多くの困難と混乱が続きました。特に新型コロナウイルス感染拡大の第 6 波では、KFC就業スタッフと家族の感染が続出し、デイサービス事業を休止するなど感染防止のために犠牲をはらうことの多かった 1 年でした。

そのような状況を抱えながらも、コロナウイルス禍で困難に陥った子どものいる留学生、難民家庭などへの生活用品・食料品援助活動を留学生の仕事にもつなげる形で実施するなど、当事者の参加・参与を事業実施にあたって進めてきた KFCらしい事業を実施しました。

既存の事業においては、オンラインを活用した日本語支援、子ども学習支援を対面方式と並行して実施するなどコロナ禍の社会状況に応じた取り組みをより進化した形で取り組みました。

一方で対面でしか実施できないエッセンシャルワークである高齢者介護部門においては、感染防止への最大限の努力を重ねながら事業を進めました。それでも各事業において、利用者、スタッフの新型コロナウイルス感染が相次いで発生し、人員のやりくりにも四苦八苦した 1 年ともなりました。KFCが支援する高齢者の多くが独居であり家族のサポートが難しい家庭も多い状況にあります。平常時でも難しい課題を抱える状況にコロナウイルス禍による過剰な課題が増え、KFCの高齢者介護部門には負担の重い 1 年となりましたが、いまだグループホーム入居者からは一人も感染者を出さないという運営がスタッフの努力で実施できています。現場のスタッフ、協力クリニック、薬局、事業所の人たちに感謝したいと思います。

厳しい状況の中でも 2021 年度、日々の事業に埋没するのではなく、外国人・移民支援以外でも KFC の事業は広がりました。

秋には、神戸市・神戸国際コミュニティセンターから委託を受けて運営しているふたば国際プラザが入居するふたば学舎と地元の再開発事業推進地区である大正筋商店街において、街の活性化を多様な文化背景を持つ人材が関わり進める「KOBE ランタン縁日」を主催し、神戸市などが協力する形で大きく開催しました。

ランタン縁日では、地元で長年続けられてきた子どもにお菓子を配布する「地蔵盆」が、コロナウイルス禍で中止される中、子どもらに楽しさを届けたいという思いから、遊びコーナーを設けた「親子縁日」の開催、お菓子の無料配布など地元根付いた活動を外国人という枠も超えて展開しました。

また KFC は、実践活動だけでなく自らの実践と理論を深め発信する事業として、助成財団の委託を受け日本の難民受け入れと隣国・韓国の難民受け入れについて、主にKFCが近年支援する第三国定住難民に焦点をあてた「東アジアにおける難民の社会統合に向けた調査研究」として 2 年間実施し、年度末には報告書を発刊しました。

その他にもKFCの事業は多岐にわたり、かかわる人たちも年々増え、多様な人たちが、主体的に人々が尊重されともに生きていくための事業を展開しています。その私たちの営みからは全く正反対のものである戦争が、ウクライナにおいて 3 月 24 日発生しました。非人道的な行いが、発生したことに対してKFCでは、ウクライナで避難民・難民となった人々への支援を目的とした「KOBEウクライナ難民支援活動」を立ち上げました。単にウクライナで難民となった人たちに目を向けるのではなく、いまだKFCが支援してきた難民、日本の厳しい政策によって厳しい状況に追い込まれている難民申請者らも視野に入れ、2022 年にまたがる活動として展開する予定となっています。

世界も地域も大きな変動が続く、新型コロナウイルス禍の収束も見通せない状況となった 2021 年度、KFCは流行りに流されるのではなく、地に根をはり、幹を育て、枝を広げ、葉をしげらせ、その成長によって困難を抱える人々、これから育つ人々のための力になる役割を果たしたと考えます。

2022 年度以降、KFCによるふたば国際プラザ事業運営の継続、ウクライナ避難民・難民支援活動の実施、ランタン縁日事業の継続など次代に果たすべきKFCの事業・活動は多くあります。2021 年度事業の成果と課題を踏まえこれからの事業を進めていく予定です。

## 会員、運営体制、会報・メールニュース発行、HP・フェイスブック発信

2021年度会員数は、正会員37、賛助会員233でした。(2022年3月31日現在)

運営体制としては、通常総会を5月29日に開催、理事会を6回開催、また各事業部門および必要に応じて連携会議を随時実施しました。

またKFC会員および関係者に向け、隔月KFCニュースを発行しました。

ホームページについてはKFCの事業情報やニュースのバックナンバーを適宜アップし、フェイスブックでもふたば国際プラザと連携した情報発信に努めました。

### メールニュース

登録者数538名弱、隔月で発行しました。

## 各プロジェクト報告

### 日本語プロジェクト

2020年度からのコロナ禍で、日本語学習クラスのやり方は大きな変化がありました。対面のクラスとオンラインのハイブリッド形式が日常になりました。当初は教室のあるふたば国際プラザが使えない期間のみオンライン形式で学習をする計画でしたが、オンライン形式に慣れていくにつれ、おおきなメリットがあることがわかってきました。行き帰りの時間と交通費がかからない、周りを気にせず集中できる、どこにいても参加できる等です。継続することが語学学習の一番重要な点ですから、どこからでも参加できるオンライン形式は、適していると言えるでしょう。中には対面のクラスが自分に合っているという人もいますので、教室は可能な限り開けました。幸いふたば国際プラザが使えなかった期間は4月25日から5月9日の間だけでした。

2019年4月から委託されている第三国定住難民向け日本語教室は、教室に来る人が半数以下になりましたが、希望者にはオンラインで継続しました。国の政策により、日本入国以前から一定のカリキュラムに沿って生活支援と日本語学習支援（子どもには学習支援も含む）が行われてきました。私たちが3年間携わった経験からの感想ですが、やはり一定期間（約6ヶ月間）日本語学習に集中できる環境があったことは、日本語能力において非常にプラスになっていると感じました。しかしながら、漢字を含む読み書きや敬語を身につけるにはまだ学習が必要です。社会人に求められる日本語能力をつけることは並大抵のことではないとも感じました。

支援者はボランティアが担っています。ふたば国際プラザ事業としての「日本語ボランティア養成講座」と日本語プロジェクトのメンバー内で、「KFC日本語ボランティアワークショップ」「日本語文法勉強会」「やさしい日本語勉強会」を各2回ずつ計6回行いました。

### I. 日本語学習支援

	レベル		場所
水曜午前グループ 水10:15～12:15	入門～中級	「生活日本語」 「入門・初級クラス」	ふたば国際プラザ ハイブリッド
木曜午前クラス 木10:15～12:15	入門～中級	「生活日本語」 「入門・初級クラス」	ふたば国際プラザ ハイブリッド
土曜午前クラス 土10:00～12:00	入門～中級	「入門・初級クラス」	ふたば国際プラザ
しんさくら	初級～中級	「生活日本語」	ふたば国際プラザ

水 9:10~12:15 土 9:00~16:00 土19:30~21:00 日20:30~21:00 ※希望時間に対応			ハイブリッド
夜グループ 木・土 17:45~20:00	入門～中級	「生活日本語」 「入門・初級クラス」	ふたば国際プラザ ハイブリッド
日曜グループ 日10:15~12:15	入門～中級	「生活日本語」 「入門・初級クラス」	ふたば国際プラザ ハイブリッド

## 2021 年度 日本語学習者のルーツと参加人数

国籍（参加人数） 1 名の場合は国籍のみ表示
ベトナム（21名）、ミャンマー（17名）、フィリピン（11名）、中国（9名）、韓国（4名）、ネパール（3名）、インド（3名）、アメリカ（2名）、ブラジル（2名）、ウクライナ、カナダ、タイ、ブルガリア、エジプト、ジンバブエ、ハンガリー、フランス

## II. 支援者養成、スキルアップ

### ○日本語ボランティア研修会

	日時	内容・講師	参加者
KFC日本語ボランティア ワークショップ 第1回	1月13日（日） 13:30 ～15:30	1. CEFRとは？ 2. 学習者を成功に誘うには？ ファシリテーター：坪田 潤 （KFC日本語支援者、ヒューマンアカデミー非常勤日本語講師、 （財）生涯学習開発財団 認定コーチ）	7名
KFC日本語ボランティア ワークショップ 第2回	1月20日（日） 13:30 ～15:30	1. 「行動中心アプローチ」の考え方 ファシリテーター：坪田 潤	8名
日本語文法勉強会 第1回	1月26日（水） 13:30 ～15:30	1. 日本語文法の基礎知識 ファシリテーター：奥 優伽子（KFC日本語コーディネーター）	3名
日本語文法勉強会 第2回	1月27日（木） 11:00 ～12:00	1. 日本語文法の基礎知識 ファシリテーター：奥 優伽子（KFC日本語コーディネーター）	1名
やさしい日本語勉強会 第1回	10月10日（日） 13:30 ～15:30	1. 入門・やさしい日本語 外国人と日本語で話そう ファシリテーター：岡本 道代（KFC日本語コーディネーター）	4名
やさしい日本語勉強会 第2回	10月17日（日） 13:30 ～15:30	1. 外国人に伝わる日本語 ファシリテーター：岡本 道代（KFC日本語コーディネーター）	5名

## III. 交流行事など（遠足・スピーチ会）

- ・6月30日（水）高取山遠足… 参加者8名
- ・10月27日（水）須磨寺・離宮公園遠足… 参加者12名
- ・10月28日（木）明石遠足… 参加者4名

- ・ 11月28日（日）ふたば まちの文化祭 模擬店・ええとこ長田お話し
- ・ 3月30日（水）姫路遠足・・・参加者15名

## 外国にルーツを持つ子どもの学習支援事業

### <MOI（新長田教室）>

2021年度もコロナの感染者がでたこともあり、学習を休まざるを得ない状況が生まれました。お菓子や飲み物の提供も中止し、代わりにフードパントリーを行い、お菓子やレトルト食品などを提供しました。コロナで子どもたち同士の関りや会話が減っているためか、日本語の習得状況がこれまで学習に来ていた子どもより、全体的に遅いように感じ、夏休みに通常の学習時間に加えて、学習できる機会「ランチ付き学習教室」を開催しました。保護者や外国人ママたちなどにご協力いただき、ムスリムの子どもたちへの宗教的配慮もした美味しい家庭料理を提供してもらいました。保護者同士も仲良くなるなど、子どもたちの学習面以外にもいい面がありました。またスクールソーシャルワーカーから相談のあった児童の学習だけではなく、食を支える生活支援も行いました。

LINE 等でのいじめ、家出、携帯の使用方法に関する問題、保護者が夜勤のためヤングケアラーとなっている状況について、家庭訪問するなどして相談に乗ったり、保護者、学校やスクールソーシャルワーカーと連携するなどして支援を行いました。その後、生活が改善され、問題行動を起こさなくなった児童・生徒もいますが、不登校になってしまうなど問題が解決できていない児童・生徒もいます。

第1子が4月から小学校入学する子どもをもつ保護者、また渡日したばかりの保護者と子どもを対象として、小学校についての説明会も行い、ランドセルが高価で買えないという家庭には中古のランドセル提供も行い、安心して学校生活を始められるよう支援を行いました。

2021年度に通ってきた子どもの内訳は下記の通りです。中学3年生1名が高校進学（私立1名）することができました。

今年度も支援者として、KFC で学習した経験のあるベトナム 2 名、コロンビア、ペルールーツ各1名などの大学生が関わってくれ、同じような背景をもつロールモデルの存在はその下の世代にとってとても心強い存在となっています。

来年度は、日本語プロジェクトと連携して親子日本語学習教室開催を検討していきたいと考えています。

### <はいず（三ノ宮分室）>

#### 経過

コロナの感染拡大が収まらない1年でした。感染予防のため、教室型で席を1m以上離し、カルタやコマ回しなど、残念ですが、子ども同士の触れ合いも減らすように声かけをしました。

4月20日緊急事態宣言を受けて、解除までまた休みとなりました。ただ、今回は、7月に日本語検定を受験する保護者のSさん、中学3年生で進路指導の必要なSさん、3月に日本にきたばかりで、日本語を勉強し始めていた小学1年生のFさんの3人を継続してみることにしました。この期間に中国に帰った子どももいました。また、ボランティアの学生の方の中にも体調を崩される方が出てきて厳しいものを感じました。

6月11日に再開しましたが、感染者が出たということで、学校は学級閉鎖や学年閉鎖が次々あり、子どもたちの休みも続きました。

夏休みには、今年も学校の宿題を中心にはいずでの学習を続け、週2回来る子どもたちもいました。

2学期には中国から来て間がなく日本語がわからないという1年生Dさんが来ました。また、11月からは今まではいずに参加してきた子どもたちの弟や妹がやってきて、日本語や就学前の学習習慣をつけるということになり、就学前の子どもたちが3人に増えました。

## 子どもたちの学習支援

子どもたちは、日本語の指導と、学校の宿題を中心に学習面での躓きや言葉の課題を支援しています。今年は新たに日本に来た子どもが1年生になった3人だけで、日本語指導よりも学習の中での日本語指導が中心になりました。学校での学習への不安が少なくなり国語や社会なども学習が進むという成果もありますが、やはり一番の課題は、読解問題や地理歴史面での社会科等の知識が少ないことです。また、数概念や九九、計算が苦手な子どもたちもいて、算数の学習を避ける傾向もあり、ボランティアの方のかかわり方にも支援が必要でした。

特別支援学級入級の問題から、高校への進学が難しくなることも今回は課題になりました。「個別に丁寧な指導がされる」と言われ、保護者が入級を承諾したけれど、数学や国語、英語の教科指導がなくなり、自立支援にその時間が使われ、高校進学に必要な学力がついていませんでした。このような進路の問題を理解することは難しいと思われます。今回は、課題が見つかった時点で、はいずでの学習と合わせて、中学校の支援学級担任との相談連携のもと中学校でも学習し試験を受けることができました。

またもう一人の中学生は、特別支援学校ではなく友達と地域の中学校へ進学することを選びました。しかし、保護者が校区の問題をよく理解できていなかったこともあり、隣の校区に転居してしまい、転校問題が起こりました。このケースも賀川記念館の担当者の粘り強い努力で元の学校に通えることになりましたが、通学距離が遠くなり本人の負担が大きく、通えないことも増えてしまいました。

## 子どもをとりまく状況と連携相談窓口

改めて保護者との相談窓口や学校との連携が取れること、そのためにも学校と情報交換をする必要があることを痛感させられました。保護者が日本の学校の状況を理解できていないのに、学校側も保護者の理解度を把握できていなかったことが分かってきました。これでは子どもにとっては、さらに困難を負うことになります。2021年度もコロナの関係もあり、学校訪問が進みませんでした。次年度はぜひ交流を進めたいです。

## ボランティアの確保

子どもたちに対応するボランティアの方が足りなくなっていました。社協からの紹介の方、大学のゼミで来てくれた学生、その中には期間を超えて学習支援に来て下さる方があり、とても助かっています。継続している高校生ボランティアの紹介で新しい高校生も来ていただきました。また関西国際大学の学生は授業の一環で5回きっちりと参加してもらえました。賀川記念館のホームページで募集していたこともあり、神戸外大の学生の問い合わせがあり、続いている人もおられます。中国人留学生の方の継承は今年も呼びかけていただき、複数参加していただいています。ただ、学生の方々はバイトもあり、就職活動が早くから始まり、最後の1年は卒業論文、博士論文など大きな課題があり、定期的な参加は厳しくなります。社協紹介のボランティアの方の中には、ご自分の社会貢献だけでなく、同様の活動を立ち上げたい、そのためのノウハウがほしいと来られる方もあり、対応が難しいと思うこともありました。

## 学習会場と賀川記念館の取り組み

2021年度も、賀川記念館の研修行事が比較的少なく、学校関係の見学・学習会も4時までには終わることが多く、ホールを中心に活動することが多く助かりました。しかし、これからは、ホール以外での活動も増えそうです。また、教材や辞典などが増えており、置き場など整理の仕方を考える必要があります。

ボランティアの方の出席、体温検査結果の記入、交通費支払いなども賀川記念館の事務局で担当するという体制が進み、記念館の隣保事業の一環としての位置づけも進んできました。教材費や交通費などの資金面の確保が重要ですが、子どもたちの参加費では賄いきれない中で、老祥記からの赤い羽根募金や教会からの募金なども継続していただけて助かりました。しかし、今後において、新たな助成金の確保ができないものか、と考えています。

## I. 日本語・教科学習支援活動

### 「MOI」(新長田教室)

小学生 水・木 16:00～18:30 土 10:00～12:00 中学生 水・木 18:00～20:30

### 「はいず」(三ノ宮教室)

小学生 火・金 16:00～18:00

所属別	MOI	はいず	ルーツ別	MOI	はいず	プレスクール	合計
就学前	1	4	ベトナム	17	0(1)	2	19
小学校	29	17	フィリピン	8(1)	2	0	10
中学校	10	2	中国	7	14(1)	0	21
不就学	0	0	ミャンマー	6	0	0	6
(保護者)	(1)	(5)	インドネシア	1	1(1)	0	2
合計	40+(1)	23+(5)	タイ	1	0	0	1
			タジキスタン	0	0	2	2
			ロシア	0	0	1	1
			インド	0	1	0	1
			アフガニスタン	0	2(1)	0	2
			パキスタン	0	2(1)	0	2
			ネパール	0	1	0	1
			合計	40+(1)	23+(5)	5	68

※プレスクールは除く

( ) 内は保護者

## II. 外国にルーツを持つ小学校入学前の子どものプレスクール事業

今年度は初めて保育園内でのプレスクールを 10 月から実施しました。通い慣れている保育園内で既に顔見知りのお友達と一緒に参加するということで、最初から安心して参加することができていました。保護者が送り迎えをする必要がないため、参加しやすいのも保育園での開催のメリットでした。

1 月からは MOI でのプレスクールも開催しました。来日したばかりの 1 年生や 4 年生、4 歳児の参加もありました。関西国際大学の学生などが支援に参加してくれたことによってマンツーマンに近い支援が行えたことで、年齢や日本語習得状況の違う子どもたちがそれぞれしっかり学ぶことができました。

実施日: 2021 年 10 月～3 月までの火曜日 13:30～15:00 開催(全 12 回)

実施体制: 講師: 暁英子(元小学校教員)

ボランティア 2 名、スタッフ 1 名

会場: 神視保育園

参加者: 5 名(ベトナム 2 名、中国 1 名、インドネシア 1 名、ベトナム×中国 1 名)

実施日: 2022 年 1 月 8 日(土)～3 月 26 日(土)までの土曜日開催(全 12 回)

実施体制: 講師: 賀来秀子(元小学校教員)

ボランティア 4 名、スタッフ 1 名

会場: こうべプレスクール(MOI)

参加者: 7 名(タジキスタン 2 名、ベトナム 2 名、ロシア 1 名、ミャンマー 1 名、タイ 1 名)

## III. ランチ付き夏休み学習会

7 月～8 月の夏休みのうちの 10 日間実施 於 ふたば国際プラザ+調理室

※8 月 6 日(金)フクロウの杜(聴覚障害の子どもたちのデイサービス)の子どもたちの交流事業実施

## IV. KFC・てんりん日本語教室(於 神視保育園) 毎週月曜日(祝日除く) 17～18 時

参加者：ベトナム人保護者 2 名

講師：林貴哉（大阪大学大学院博士後期課程、甲南女子大学非常勤講師）

#### V. イベント、研修会等

- ・12月22日（水）年末お楽しみ会 於 ふたば国際プラザ 参加者：子ども 20 名、支援者 20 名
- ・3月3日（木）「進路・就職選択について」

大学生から小学生対象に自分の進路・就職選択について話をしてもらい、進路について考える会を開催。

#### VI. 学生、学校などの受入

- ・10月～1月 甲南女子大学林ゼミの行動演習プログラム 13 名
- ・通年 神戸大学国内プログラム 12 名程度
- ・3月～4月 関西国際大学学生受け入れ 19 名

#### 在日外国人児童読書の会

新型コロナウイルス感染症拡大のため 2021 年度は 2 回しか実施できませんでした。学校の担当の先生と図書館職員とコロナ禍での実施のため、感染対策しながら行える方法について打ち合わせました。そうしても行うと問題点がいくつかありました。次回に改善していこうとも話し合いました。緊急事態宣言中、まん延防止中に実施できないのはもちろんですが、学級閉鎖や児童が感染したのが理由で急に行われないこともありました。今年度も実施回数が少ないのが残念でした。

たった 2 回しか行うことができませんでした。参加した児童は待ち遠しく感じていた様子でした。この 2 年間、卒業した児童と入学した児童があり顔ぶれが大きく入れ替わっており、初対面でお互い緊張感がありました。久しぶりに再会した児童もだいぶ成長していてたくましくみえました。これからもコロナ禍と共存していく知恵を絞りながら実施したいと思っています。

グローバル出張読書の会				
期間	場所	時間	スタッフ	参加数
2021年10月26日（火）	駒ヶ林小学校	14:50～15:00	13	15
2021年11月16日（火）	駒ヶ林小学校	14:50～15:00	6	17

#### ふたば国際プラザ

新型コロナウイルスの影響により、4月25日（日）から5月11日（火）まではふたば学舎が休館となったことに合わせて休館となりました。5月12日（水）の再開後も5月31日（月）までは10時～17時、6月1日（火）から9月30日（木）まで10時～20時の時短での開館となりました。（水・木・金・土は通常は20時30分まで。※日・火・祝は従来から10時～17時まで）完全な休館となった時期は4月から5月にかけての期間だけでしたが、その後の時短開館や緊急事態宣言、まん延防止措置などにより事業の実施時期がずれたり、内容を感染対策上実施可能な内容に変更したり、参加者数を制限したりと大幅な変化が起きました。2022年4月現在でも、日本語学習や日ごろの交流活動の参加者など、一定数の方々が来館を自粛されています。その中でも感染対策を取りながら積極的な事業展開を行い、特に2021年10月にKOBELANTAN縁日2021が行われた際には交流・相互理解事業を実施して多くの来場者を得ることができました。年間を通してみると、過去3年間でも最も来館者が多い一年となりました。（2019年度：6,882名、2020

年度：５，４３６名）

地域住民や関係各所からの問い合わせ、ボランティアの希望、視察の希望なども増加し、ふたば学舎をはじめとして多くの関係先と協働して事業にあたり、地域と進める「多文化共生」の拠点施設として成長しました。そして、新長田に移転したＫＩＣＣと連携のためのミーティングを設置するなど、事業の深化に向けた取り組みを進めました。

今年度の実施事業は下記の通りです。

## I 在住外国人支援

### 外国人住民生活ガイダンス事業

開催日時	内容	講師（職業等）	料金	受講人数（名）
５月２０日（木） ～６月２６日（土）	子どもの学校生活のために おぼえたい５０のことば	奥優伽子（ふたば国際プラザ） 志岐良子（ふたば国際プラザ） リュウダンバオリン（ベトナム語）	無料	６  （中国・ナイジェリア・ フィリピン、ベトナム）
７月２６日（月） ～８月２日（月）	新型コロナウイルス ワクチン予約と接種の流れ	大石貴之（ふたば国際プラザ） 季穎（中国語） ファンティルオン（ベトナム語）		５  （タイ・中国・ フィリピン、ベトナム）
９月１５日（水） ～２８日（火）	警報と注意報	大石貴之（ふたば国際プラザ） 季穎（中国語） ファンティルオン（ベトナム語）		１７  （エジプト・中国・ ベトナム、ミャンマー）
１１月２３日（火） ～１１月３０日（火）	プラスチックのリサイクル （ごみの分別）	大石貴之（ふたば国際プラザ） 季穎（中国語） ファンティルオン（ベトナム語）		２０  （中国・ベトナム・ ミャンマー）
２月１８日（金） ～３月１８日（金）	新型コロナウイルス ワクチン接種	大石貴之（ふたば国際プラザ） 季穎（中国語） ファンティルオン（ベトナム語）		１５  （タイ・中国・ベトナム・ ミャンマー）
３月２６日（土） 、３１日（木）	子どもの学校生活のために おぼえたい５０のことば	奥優伽子（ふたば国際プラザ） 志岐良子（ふたば国際プラザ）		３  （ミャンマー・ブラジル・ タジキスタン）
合計				６６（前年比：＋３５）

## II 日本人と外国人の交流・相互理解事業

### 交流・相互理解事業

開催日時	内容	講師（職業等）	受講 料金	受講人数（名）
１０月１５日（金） 、１６日（土）	世界のあそび体験	ファンティルオン（ベトナムの遊び） Wu Yuzheng（中国の遊び） 永良（内モンゴルの遊び）	無料	約１，５００
１０月１６日（土）	相互理解講座 ～世界の食文化～	Walaa Mahdy （エジプト・スピーカー） 山本真央（通訳）李乗漢（司会） 外国にルーツをもつ子どもたち（展示）	無料	２０
１０月１７日（日）	新長田 フィールドワーク	金宣吉（ＫＦＣ理事長）ほか	無料	１５



10月30日(土)	多文化おばけやしき ～世界のゆうれいと であえるよ～	山本則子(ふたば国際プラザ)ほか 地域ボランティア	無料	162
11月28日(日)	ええとこながた ～多文化を たのしもう～	岡本道代(ふたば国際プラザ) ベトナム、中国の日本語学習者4名 外国にルーツをもつ子どもたち(展示)	無料	300 (発表観覧30、 展示観覧270)
1月10日(月)	日本のお正月体験 ～たこあげ～	山本則子(ふたば国際プラザ)	300円	21 (小学生13、 付添家族8)
合計				2,018 (前年比: +1,952)

交流スペース(日本語学習スペース、会議スペース)の提供(登録団体・個人数: 27件) \*前年度比+6

月	利用内容	利用団体・個人数	利用回数
4月	日本語学習、日本語ボランティア研修、外国にルーツをもつ子ども英会話	3	17
5月	日本語学習、外国にルーツをもつ子ども英会話	2	11
6月	日本語学習、外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、 中国語交流会、パソコン教室、日本語交流会	6	29
7月	日本語学習、外国にルーツをもつ子ども学習支援・英会話、英語交流会、 中国語交流会、パソコン教室、日本語交流会	7	45
8月	日本語学習、外国にルーツをもつ子ども学習支援・英会話、英語交流会、 中国語交流会、パソコン教室、日本語交流会	7	35
9月	日本語学習、外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、 中国語交流会、パソコン教室、日本語交流会	6	35
10月	日本語学習、外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、 中国語交流会、パソコン教室、日本語交流会	6	31
11月	日本語学習、外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、 中国語交流会、パソコン教室、日本語交流会	6	25
12月	外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、中国語交流会、 日本語交流会、外国にルーツをもつ子ども年末おたのしみ会、 ミャンマー関西学習会、識字交流会打ち合わせ、神戸ビジョン委員会研修会	8	26
1月	外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、中国語交流会、 韓国語交流会、パソコン教室、日本語交流会、ミャンマー関西イベント、 個人言語学習	8	34
2月	外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、中国語交流会、 韓国語交流会、パソコン教室、日本語交流会、個人言語学習、 モンゴル語母語教室、英会話教室	9	37
3月	外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、中国語交流会、 韓国語交流会、パソコン教室、日本語交流会、個人言語学習、 モンゴル語母語教室、地域の多様性の歴史を学び理解を深める講座	9	42
	合計	77(前年比: +33)	367(前年比: +164)

## ヒューマン・シネマ上映会

開催日時	内容	講師 (職業等)	受講料金	受講人数 (名)
4月23日 (金)	BROOKLYN』2015アイルランドほか	金宣吉  (KFC 理事長)	無料	6
6月25日 (金)	『In This World』2012イギリス			5
7月3日 (金)	『I am Sam』2001アメリカ			7
8月20日 (金)	『ウォーム・ボディーズ』2013アメリカ			12
9月24日 (金)	『エール!』2013フランス			15
10月15日 (金)	『ズートピア』2016アメリカ			50
10月29日 (金)	『LION〜25年目のただいま〜』 2016オーストラリアほか			12
11月26日 (金)	『あの子を探して』1999中国			17
12月24日 (金)	『バジュランギおじさんと、小さな迷子』2015インド			13
1月28日 (金)	『ギルバート・グレイプ』1983アメリカ			11
合計				148 (前年比: +106)

## Ⅲ その他人材育成事業

### ○日本語ボランティア養成講座 全8回 時間: 14:00～16:00

開催日時	内容	講師 (職業等)	受講人数 (名)
9月12日 (日)	・日本語ボランティアの心構え ・多文化共生を考える (レヌカの学び)	奥優伽子 (ふたば国際プラザ) 岡本道代 (ふたば国際プラザ)	17
9月19日 (日)	神戸市の日本語教育体制	尾形文氏 (KICC)	16
9月26日 (日)	神戸に住む外国人の歴史と現状	金宣吉 (KFC理事長)	16
10月3日 (日)	・学習者の実体験を聞こう ・ライフステージごとに必要な日本語	奥優伽子 (ふたば国際プラザ) 岡本道代 (ふたば国際プラザ)	15
10月10日 (日)	韓国語で韓国語の授業を受け、 外国語で授業を受けることについて考えよう	李乗漢 (ふたば国際プラザ)	14
10月17日 (日)	・ボランティア経験者の話を聞こう① ・日本語教育の基礎知識①	奥優伽子 (ふたば国際プラザ) 岡本道代 (ふたば国際プラザ)	13
10月24日 (日)	・ボランティア経験者の話を聞こう② ・日本語教育の基礎知識②	奥優伽子 (ふたば国際プラザ) 岡本道代 (ふたば国際プラザ)	16
10月31日 (日)	・講座の振り返り ・ふたば国際プラザ事業とボランティア活動について	奥優伽子 (ふたば国際プラザ) 岡本道代 (ふたば国際プラザ) 大石貴之 (ふたば国際プラザ)	15
合計			122 (前年比: +33)

## 多文化ひろめ隊♪(在日外国人ゲストティーチャー)養成講座

開催日時	内容	講師（職業等）	受講料	参加 講師数	参加 児童館数
8月21日（土）	1．自分のルーツや文化紹介の仕方 （子ども向けの日本語表現や注意点） 2．文化紹介の先輩から話を聞こう	奥優伽子  大石貴之 （ふたば 国際プラザ）	無料	19	10
10月23日（土）	1．自分のルーツや文化紹介の仕方 （子ども向けの日本語表現や注意点） 2．前回参加した時の振り返り			10	7
12月18日（土）	1．自分のルーツや文化紹介のポイント （日本語表現や注意点について） 2．前回参加した時の振り返り			12	8
合計				41（前年比 ：＋22）	25（前年比 ：＋15）

## IV 留学生等を活用した国際理解教育事業等

開催時期	派遣講師数(名)	出身国・地域数	派遣児童館数
9月	19	8	10
11月	14	8	7
1月	12	7	6

### <派遣講師出身国・地域>

インドネシア、内モンゴル、エルサルバドル、韓国、シリア、台湾、中国、ネパール、フィリピン、ベトナム、ミャンマー、ロシア

## V 地域他団体との連携

プラザの運営にあたって、近隣の諸団体との連携によって事業の規模を拡大し、充実した内容にすることができました。特にふたば学舎とはK O B Eランタン縁日2021の共同実施、ハロウィーン企画や文化祭での交流事業のタイアップ実施、或いは広報誌への掲載協力、利用者に対するイベントへの相互広報・周知など様々な連携を行いました。

## K F C帰国者新長田交流会

### I. 交流事業

コロナ禍が一進一退を繰り返し、帰国者交流会も厳しい時期が続いています。交流会の参加者数は依然として往時の2～3割です。しかし、数少ない社会参加の機会として交流会を楽しみにしている方々もいらっしゃいます。期待に応え「居場所」、「健康維持」、「社会参加」の役割を果たせるよう、安全で楽しめる活動内容の充実に取り組みました。感染状況が落ち着いた秋頃は、久しぶりに交流会に足を運ぶ方々の姿が見られ、再会を喜び、日本語学習や踊り、体操を楽しみました。今後はコロナ禍の継続や高齢化、文化の継承となどいろいろな課題がありますが、参加者の声を反映しながら対応していきます。

#### 1. 日本語学習

「今後重い病気にかかった時に、医者の方が言うことが理解できないことが心配だ」ある二世の参加者の方がこのようにお話されていました。このような声に合わせて問診票の書き方、医者との会話例を教材

として取り入れるなど、有用性のある内容を取り扱いました。秋には防災、年末には今年の漢字についてなど、時期に合わせた幅広い話題を扱い、参加者の関心を高めました。一方、ふりがなや文節で分けるなど分かりやすくする工夫を行い、誰もが楽しく有用な学習ができるように取り組みました。今後の希望としては認知症やその予防に関する語彙を増やしたいという声があるため、次年度に取り組みます。交流会への参加を自粛している方々に対しては、WeChatを使って近況を話したり日本語を学習したりできるオンライン学習の機会を設けました。遠方在住の方などで、毎回欠かさずに参加される熱心な方もいらっしゃいます。同居家族以外とつながりをもつ貴重なチャンネルになっています。

## 2. 交流会

神戸まつりが中止となり「秧歌（ヤング）踊り」は発表機会を失いました。また遠足や料理教室、カラオケも行えなかったため、ふたば国際プラザの中でできる活動の充実に取り組みました。中でも好評だったのは、歌に合わせて座ったまま手や足を動かして無理なく体操できる「イス体操」です。「花笠音頭」や「炭坑節」などの歌に振り付けをつけたビデオをスクリーンで見ながら体操しました。歌をよく知っているという方もおり、映像に合わせて口ずさみながら身体作りを行いました。一方で市販の素材は日本語なので、振り付けの指示を理解しにくい方もいらっしゃるため、次年度は中国語翻訳も行った素材を独自に作成し取り入れたいと考えています。また、従前から行っている太極拳や広場踊りといった中国の文化的背景に繋がる活動も継続しました。そのほか、中国の足腰を鍛える運動「八段筋」にも取り組みました。

## 3. 広報活動

「K O B Eランタン縁日2021」にて、ランタンの展示や楽器の演奏を通して広報活動を展開しました。ランタンには切り絵を貼り付けたり、絵の具で漢字や寺の絵を描いたりして皆で絵付けを楽しみました。縁日当日には二世の李賀さん、範宝珍さんに二胡、フルスの演奏をして頂き、地域の老若男女が聞き入りました。その後、ランタンは東急プラザや新長田大橋地下道などでも展示を行い、多くの地域住民に帰国者の文化的背景や交流会の活動について発信しました。また、これらの活動について感想文を寄稿頂き、帰国者通信にまとめました。

2021年度 KFC帰国者交流会実施状況									
(日本語学習及び交流会) 会場：ふたば国際プラザ・みなく～明舞									
開催日	参加者数(名)			内容	開催日	参加者数(名)			内容
	計	一世	二世			計	一世	二世	
4/6	8	5	3	ふたば交流会	10/26	6	4	2	ふたば交流会
4/13	3	2	1	明舞交流会	11/2	11	5	7	ふたば交流会
4/20	7	4	3	ふたば交流会	11/9	5	3	2	明舞交流会
4/27	8	1	7	WeChat日本語	11/16	12	7	5	ふたば交流会
5/4	6	1	5	WeChat日本語	11/23	7	4	3	ふたば交流会
5/11	6	1	5	WeChat日本語	11/30	8	5	3	ふたば交流会
5/18	5	1	4	WeChat日本語	12/7	15	6	9	ふたば交流会
5/25	6	1	5	WeChat日本語	12/14	4	3	1	明舞交流会
6/1	6	1	5	WeChat日本語	12/21	20	9	11	ふたば交流会
6/8	6	1	5	WeChat日本語	1/11	5	3	2	明舞交流会
6/15	4	1	3	WeChat日本語	1/18	8	5	3	ふたば交流会

6/22	7	4	3	ふたば交流会	1/18	5	2	3	WeChat日本語
6/29	9	6	3	ふたば交流会	1/25	5	3	2	ふたば交流会
7/6	5	3	2	ふたば交流会	1/25	5	2	3	WeChat日本語
7/13	3	2	1	明舞交流会	2/1	4	2	2	ふたば交流会
7/20	5	3	2	ふたば交流会	2/1	5	2	3	WeChat日本語
7/27	6	4	2	ふたば交流会	2/8	3	2	1	明舞交流会
8/3	7	4	3	ふたば交流会	2/15	5	3	2	ふたば交流会
8/10	4	2	2	明舞交流会	2/15	5	2	3	WeChat日本語
9/7	5	3	2	ふたば交流会	2/22	6	4	2	ふたば交流会
9/7	5	1	4	WeChat日本語	2/22	5	1	4	WeChat日本語
9/14	5	2	3	WeChat日本語	3/1	6	4	2	ふたば交流会
9/21	6	4	2	映画資料館	3/1	5	1	4	WeChat日本語
9/21	7	3	4	WeChat日本語	3/8	3	2	1	明舞交流会
9/28	8	5	3	ふたば交流会	3/8	6	1	5	ふたば交流会
9/28	4	1	3	WeChat日本語	3/15	7	4	3	ふたば交流会
10/5	7	5	2	ふたば交流会	3/15	6	1	5	WeChat日本語
10/12	4	3	1	明舞交流会	3/22	8	4	4	映画資料館
10/15	5	2	3	ふたば交流会	3/22	5	2	3	WeChat日本語
10/16	2	0	2	ランタン縁日	3/29	7	4	3	ふたば交流会
10/19	7	4	3	ふたば交流会	3/29	5	2	3	WeChat日本語
					計	383	182	202	

## II. 相談事業

今年度も引き続き相談対応を行いました。介護や病気治療に関する相談があったほか、夫の介護をしているために外出があまりできず、老々介護の状況に心身のストレスがたまっていることが見受けられるケースもあり、本人だけでなく配偶者の方に対してのフォローも必要だと感じました。不安を抱えたときに相談に乗れる、話を聞ける体制が必要です。

また、今年度は新型コロナウイルスワクチンの効果やリスクについての相談もありました。リスクへの意識が強く、接種を忌避する方もいらっしゃる、メーカーによる違いに敏感な方もいらっしゃいました。日本のメディアにあまり触れておらず、日本の接種事情などについてあまりご存じないケースもあり、情報の補足が必要だと思うこともありました。

コロナ禍が長く続いている間に高齢化が進み、帰国者同士のネットワークも希薄化しています。お一人おひとりの状況を確認してより細やかな支援が必要です。

### デイサービスセンターハナの会（通所介護事業）

2021年度もデイサービスセンターハナの会は、在日コリアン・日本・ベトナム・中国という多様な文化をもつ利用者の民族性に配慮したサポートで居場所作りに取り組んできました。新規利用者

は年間を通じて15名ほどで、多文化のルーツを持つ利用者については、外部からの問い合わせも数件あり、中には親子で利用するというケースもありました。そのような中、継続して個別機能訓練とレクリエーション活動の充実化を図ってきました。利用者も抵抗なく取り組む中で相互交流もあり、活気が生まれました。午後からのグループ活動については、すべてのスタッフが主体的に取り組み、明るく楽しい作風づくりができました。また、ヒヤリハットを積み重ね、スタッフ間で共有して事故防止に努め、安全で安心できる場づくりに励みました。

昼食提供については、年度末の調理員雇用まで時間がかかりましたが、その間も配食業者の開拓やスタッフの工夫で調整してきました。昨年から続くコロナ感染対策は、これまで通りに取り組み、予防接種の推奨や予診票の記入などのお手伝いもしてきました。

一方、この一年は、独居の方の自立生活が困難になり、デイサービス利用を中止せざるを得ないケースが相次ぎました。送迎体制においても介護度が上がっていく利用者に対して、サポートがさらに必要となっています。また、今年度もコロナ感染者増大により、利用率の減少に伴う売上げ減が長期化しました。その影響もあって、1月に昼食代金の値上げに踏み切りました。その他、すべてのボランティアの停止や感染対策の業務などスタッフにかかる負担も多く、季節行事の縮小・カラオケ停止など、レクリエーション活動にも多くの制限がかかった結果、高齢者の心身機能の低下も見られています。

こうした中、新しい看護師2名を迎え、スタッフ全体で利用者同士や個別にトラブルになりそうな場面では適時対応を行っていきました。加えて、ケアマネージャーや家族と連携しながら、高齢化がすすむ利用者のサポートのあり方を探っていきました。

また、大手前大学などの看護実習生の受け入れプログラムは、コロナ禍のため制限された中で、実施しました。今後もマイノリティ団体や地域ボランティアなどとも協力を深め、利用者が充実した生活を送ることができるように、一丸となってサポートしていきたいです。

	要支援延べ数	要介護延べ数	延べ利用者数	一日平均
2021年4月	88	195	283	10.9
2021年5月	31	204	235	9.0
2021年6月	27	147	174	6.7
2021年7月	32	108	140	5.2
2021年8月	30	137	167	6.7
2021年9月	36	109	145	5.6
2021年10月	81	172	253	9.4
2021年11月	89	170	259	10.4
2021年12月	94	157	251	9.7
2022年1月	94	156	250	9.6
2022年2月	79	120	199	7.7
2022年3月	75	136	211	8.1
年間	756	1,811	2,567	8.2

## ハナ介護サービス(居宅介護支援事業)

### 1. 概要

・利用者様数の増加や、後継管理者育成のため、2021年1月より、常勤の介護支援専門員2名体制になりました。これにより、新規のご利用者様の相談等にも対応することができました。

・現状の神戸市介護予防・日常生活支援総合事業に合わせ、利用者様への支援について継続性が保てるよう、必要な対応を講じました。

・ケアマネジメントの内実としては介護支援専門員の力量不足による支援内容の稚拙さの為に、在宅生活を断念せざるを得なくなり、入居型サービスへ移行された利用者様がられる等、猛省が必要で在宅支援技術・手法の研鑽が課題となっています。

・利用者様の傾向としては要支援及び要介護1～2の軽度者の方の割合（75.9%程度）が多く、ルーツ別では、コリアン23名、日本人11名、ベトナム人14名、華僑3名、帰国者2名、と文化的背景が多様な状況となっています。また、独居25名と家族による支援が限定的で、経済的に厳しい利用者様が多い状況です（3月末実績時点）。

## 2. 2022年度に向けての計画

・11月以降、神戸市介護保険課やあんすこからの要請もあり、常勤2名に見合った定数70名まで利用者数を受け入れます。定員になった時点でケアマネをもう1名増員します。（女性）付近のあんすこさんより紹介されるケースで女性ケアマネ希望の場合は多々、現状お断りしております。また、できれば増員により、特定事業所加算Ⅲの算定を目指します。

・利用者さんについては、できるだけ法人の理念に沿った外国ルーツの方々の支援を中心に、他については、地域あんすこさん・長田支援課の要望に沿い、男性2名のケアマネ在籍の事業所としてできる事案、女性ケアマネ対応困難事例等について、地域案件中心に受けております。

・これに伴い、ケアマネジメント・対応ケースの幅を大幅に広げてゆく事が、重点課題です。

### ケアマネジメント実績件数（単位：件）

月	支援Ⅰ	支援Ⅱ	介護Ⅰ	介護Ⅱ	介護Ⅲ	介護Ⅳ	介護Ⅴ	合計	支援0.5 換算
4	6	11	12	9	6	2	2	48	39.5
5	5	11	13	11	5	2	3	50	42
6	5	11	13	10	5	2	3	49	41
7	5	11	13	8	6	3	2	48	40.0
8	4	11	13	8	8	3	2	49	41.5
9	4	11	14	7	6	4	2	48	40.5
10	6	11	14	7	5	5	2	50	41.5
11	4	12	13	7	5	6	2	49	41
12	4	14	15	8	4	7	1	53	44
1	5	15	16	8	4	7	2	57	47
2	4	15	14	7	5	7	2	54	44.5
3	4	14	15	8	4	7	2	54	45

### コミュニケーションサポート事業

#### 1. 概要

・サポーター派遣に伴う利用者（介護保険を利用される方）の費用負担はなく、1人につき、年に4回まで利用することができます。

・通訳派遣・サポーター養成だけでなく、言葉や情報の壁の為に制度を利用することができず、必要な日常生活支援が得られないという状況が改善できるよう、今後も本事業の実効的な運用に努めたいと考

えています。

→神戸市の枠の中での運用となり、年4回では、介護保険との併用利用では、この回数制限では厳しい状況となっています。

## 2. サポーター等の充実について

・12月には念願のサポーター研修も開催いただき、新たなサポートメンバーの増員もできました、今後も年1回程度は、定例的な開催を継続したいと思います。

## 3. 他事業所等との連携

・介護関係特に地域のあんしんすこやかセンター中心に地域の必要なニーズの紹介を受け、介護事業へ引き継いでゆきたいと存じます。新規利用者さん獲得の武器として活用します。

## 4. コミサポ利用状況 実績

昨年第1四半期6件・第2四半期12件・第3四半期16件・第4四半期10件／年間54件

### ハナ介護サービス（訪問介護事業）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	23	25	27	24	24	25	25	25	28	28	28	26

現在の契約者数は33名です。ルーツを分けるとコリアン11名、ベトナム13名、日本4名、華僑3名、中国帰国者関係2名です。要支援者が11名で、要介護者22名です。独居は17名です。この一年は要支援者から要介護者になっている方も多くなっています。新型コロナウイルス感染を恐れて、外出しない、通院を控え、デイサービスに行かないなどで、頭や身体の運動機械が減ってしまったことが、介護度が上がった要因かもしれません。

訪問介護部は職員兼訪問6名と登録ヘルパー3名で活動してきました。KFCでは月2回程度、新型コロナ対策会議を開き、行政の新指示に沿って感染防止や対策をしてきました。ワクチン接種を受けない利用者やヘルパーもいる中、職員が毎日の検温、体温のチェックをした上、定期的にPCR検査も行うおかげで、早期に養成発見されたこともあり、利用者へ感染せずにすんだ功績があります。

対面のヘルパー会議は全然実施できていないため、この一年はほとんど「新型コロナ対策や県知事のおよびかけ」、PCR検査場所・ワクチン接種情報・問診票など多言語(英語・韓国語・ベトナム語・ポルトガル語・中国語など)で発行されている者をそれぞれの言語のスタッフに配布して活用してきました。

日時	テーマ
2021年4月	介護現場の高齢者虐待・不適切ケアの防止
2021年5月	知事のお知らせ「コロナウイルス5つ目の波(2回)」多言語 コロナウイルス感染症は労災認定されるか?
2021年6月	知事のお知らせ「コロナウイルス5つ目の波(2回)」多言語 ベテランヘルパーとのコミュニケーション
2021年7月	知事のお知らせ「コロナウイルス4つ目の波」多言語 ヘルパーが気づける住環境改善のポイント
2021年8月	知事のお知らせ「コロナウイルス4つ目の波」多言語 新型コロナウイルス感染症対策における神戸市の対応方針 第3弾
2021年9月	新型コロナを理由に八つ当たりされたとき



2021年10月	ハラスメントの実態と対策、インフルエンザワクチン券
2021年11月	知事のお知らせ、F R E S Cの多言語のワクチン情報 マスク着用のリスク、仕事に生きるアイデンティティ
2021年12月	高齢者虐待防止（事例検討編）
2022年1月	知事のお知らせ（3回）多言語 神戸市外国人検査相談コールセンターのお知らせ
2022年2月	知事のお知らせ（2回）
2022年3月	知事のお知らせ（2回）多言語 マスク時代・スマホ時代のコミュニケーション術

## 福祉有償運送

2021年度の福祉有償運送を派遣したのは215回で、延べ63名の利用でした。遠方の利用者が利用しなくなったことを機会として、近くの利用者のみに制限しています。

2021年11月26日（金）にK F Cの運転手に交通安全講習会を開きました。事故防止のための注意点をたくさん取り上げ、勉強の良い機会になりました。

この福祉有償運送を利用できるのはハナ介護サービスの利用者に限定しています。駐車禁止除外指定を受けていても駐車違反が何度もありました。課題として改善したいです。

年月	利用回数	利用者数
2021年4月	20	5
2021年5月	17	4
2021年6月	21	6
2021年7月	17	5
2021年8月	13	5
2021年9月	17	5
2021年10月	28	6
2021年11月	21	6
2021年12月	20	5
2022年1月	13	5
2022年2月	14	7
2022年3月	17	4
計	215回	63人

## グループホーム（認知症対応型共同生活介護）ハナ・小規模多機能型居宅介護ハナ

はじめに

今年度は、5月1日に小規模多機能型居宅介護ハナで、コロナウイルスの感染が発生し、利用者4名、職員4名が罹患するクラスターとなりました。そのため、保健所の指導を受けながら、5月8日より5月17日まで事業所を閉鎖。5月18日より再開できましたが、残念なことに利用者1名は入院先で他界されました。その後、6月に入ってから、グループホームハナの利用者、小規模多機能型居宅介護ハナの利用者のうち希望者、および職員全員のワクチン接種を、近隣の松浦クリニックの協力で2回行いました。3回目も年明けの1月に終了。2月に職員が2名コロナウイルス陽性となり、1名が濃厚接触者となりましたが、利用者に感染が広がることはありませんでした。

上記のように、コロナウイルスの感染、および対応に苦しんだ1年となりました。

そのため、面会の制限や外出の自粛など、普通の生活に程遠く、結果として利用者のレベル低下を招いたように感じます。来年度も引き続き、コロナウイルスの感染対応を継続しながら、少しずつ、元の生活に近づけていけるように、施設としても努力したいと思います。

## 【2021年度の重点課題】の検証

I、2020年度に続き、コロナウイルスへの感染を防ぎ、利用者・職員が安全、安心に過ごせる職場を作ります。

→上記の通り、小規模多機能型居宅介護ハナで感染が発生し、利用者や職員の安全を脅かす状況を招きました。その中で、法人内での感染対策委員会で情報を共有し、適宜、相談を行いました。また、近隣の協力医療機関、かかりつけ薬局、連携先の訪問看護ステーションのおかげで、3回のワクチン接種がスムーズに実施でき、予防に大きく役立ったと感じています。

## II. 職場力を高めます

### 1、情報の共有化ができ、何でも相談しあえる職場作りを目指します

- ・感染者が出た時期は、開催できないこともありましたが、小規模多機能型居宅介護ハナでは、ほぼ毎月、グループホームハナでも、フロアごとに2~3か月に1回の割合で、フロア会議を実施しました。

- ・リーダー会議は不定期となりましたが、オンライン開催で行いました。

- ・職員会議はフロアを超えて職員が集まる場となるため、今年度は中止しました。

- ・サービス担当者会議は、今年度は各フロア単位での開催となりました。

＊一昨年から全体の申し送りがなくなり、5月以降、更衣場所も各フロアとなったため、連携や情報の共有化が困難な1年でした。

### 2、職員の育成に努めます

- ・直接介助である食事、排泄、入浴等や、生活支援である調理、洗濯、掃除等における方法や手順などハナでのマニュアル作りは進みませんでした。

- ・新人職員教育について、夜勤に入るまでにここまではクリアするなど、目処をたてて指導できるよう、新人職員と指導職員が共通してシートをもち、指導の進み具合を共有するようにしました。また、人によって指導方法にばらつきがあるため、最初は同じ職員とシフトがかぶるように調整し混乱が少なくなるように配慮しました。それでも「言うことが人によって違う」と困惑するケースが見られました。

- ・主な介護の資格・研修については、下記の通りです。

新職対象の介護職員基礎研修を1名受講。

実務者研修を1名受講。

認知症介護実践者研修を2名受講。

ITCを用いた福祉の仲間作り研修1名受講。

小規模多機能型居宅介護の計画作成担当者研修2名受講。

＊介護福祉士の受験は3名がチャレンジしましたが、残念ながら合格には至りませんでした。

- ・高齢者の生活の場であり、感染対応もそうですが、ターミナルケアまで行う施設として医療との連携を密に行いました。終末期の意向確認の様式を、訪問看護ステーションはれの山根看護師と、リーダーたちと作成中ですが進んでいません。救急搬送時や入院の時に、最初に延命措置の意向を聞かれることが増えました。早急に作成が必要と思われます。

- ・リーダー等役職向けの研修（施設内、施設外含め）、資格取得を応援するための介護福祉士試験対策講座を開講したかったですが行えませんでした。

- ・外国人職員の日本語教育の機会は、職員がプライベートでは時間がとれないことや、コロナ禍のため他部門との連携が困難で実現しませんでした。

### 3、日課の充実

・利用者の意欲を引き出す小規模な行事やレクリエーション、体操、生活リハビリなどは、コロナ禍のため各フロアー単位となりましたが、出来ることを工夫して行いました。

### Ⅲ、家族や地域とのつながりを継続して持つ

1、面会がしばらく行えないことも念頭に、ハナ通信や、月間予定の送付等で情報提供を行おうと思っていましたが、タブレット導入によるオンライン面会や、ラインで家族とつながる事が出来て、まめに情報交換が行えるケースが増えました。

2、運営推進会議については、今年度は、コロナ禍もあり、オンラインで1回のみしか開催できませんでした。また、地域住民への参加呼びかけも行えませんでした。

### Ⅳ、各部署別の方針

#### 1. 小規模多機能型居宅介護ハナの経営方針

- ・感染者を出さずに事業運営ができることを目標にしていたが、はじめに報告通り、感染者が8名発生し、事業所を2週間閉鎖することになりました。
- ・コロナウイルスへ罹患後に完治した高齢者の受け入れも目標とあげていましたが、このたび、感染した利用者4名中、3名は完治し、ハナの利用を再開されました（1名は入院中に他界されました）。また、年明けにコロナに罹患して完治し、退院をしたが自宅での生活が困難な利用者を一時的に緊急ショートとして受け入れました。
- ・上半期は小規模のクラスターや事業所閉鎖がありましたが、登録件数20件前後で推移しました。ただ、利用の自粛や入院のため実績のない利用者が常に2～3名あり、実質16～18名の実績で推移。下半期は、登録件数を上限の24件まで引き上げたかったのですが、20～22件まででした。実績としては、上半期同様、入院やコロナ禍の利用控えがあり、19名～20名の実績で推移しました。利用件数最大24件を引き上げる事は、翌年度に持ち越します。
- ・宿泊について、常に4室は利用者がある状態を目標にしましたが、利用者がグループホーム入所をするなどで入れ替わりながら、上半期は4月以外は、平均、3室に利用者がある状態でした。緊急ショートの利用も含めると、下半期は、4室以上で稼働する事も多く、満室の日も出てきました。
- ・通いについては、コロナウイルスの感染の状況によって、増やすことが困難だと考えていましたが、感染拡大に伴う利用者の自粛もあり、人数の変動が大きかったです。
- ・訪問については、200件/月以上を目指し、実現した月もありますが、人員体制が整わず、訪問体制強化加算が算定出来ませんでした。
- ・利用者の状態を低下させないプログラム作りやケアマネジメントを行いたいと思っていましたが、コロナ患者の発生や自粛のため、外出や自由な活動も制限され、レベルの低下を招いた利用者もみられました。

#### 2. グループホームハナの運営方針

- ・グループホームでは、年明けに職員の感染がありましたが、利用者の感染を出さずに、入院もほとんど無く推移しました。
- ・利用者の健康維持、ADLの維持に努め、利用者の異常の早期発見から、医療と連携し、入院という経過を最小限にし、平均在室者を17名以上で運営ができました。
- ・利用者の健康維持、認知機能の維持のため、体操や生活リハビリ、日課を充実させてきましたが、外出や面会が出来ないなどの制限の中、認知機能や身体機能が低下する利用者が増えました。

#### 3. 合同の取り組み

・行事、研修、防災訓練、事例検討会など計画したことは、通常の状態でない中、満足に行えませんでした。来年度は、感染対応をしながら、徐々に元戻せるところは戻していきたいと思っています。

## その他

### I.「多文化共生」を考える研修会 2021

2021 年度も様々な地域で活躍されている方にご登壇いただき、コロナ禍のためオンラインで研修会を開催しました。昨年度の反省を生かして申し込み人数を増やしましたが、今年も当日の参加者は申し込みから減少しました。来年度もオンラインでの実施をする場合には、開催日時、受付方法などについて再検討します。

#### 開催日・内容・参加者数一覧

11月4日(木)【「日本人」と「外国人」の境界】		
13:35～15:30	「「外国人を作り出した戦後」 朴 沙羅(ヘルシンキ大学文学部文化学科講師)	70名
15:15～16:45	「『日本人』とはだれか～『ハーフ』の経験から考える～」 下地 ローレンス吉孝(ハワイ大学研究員)	
11月7日(日)【外国にルーツを持つ子どもの教育】		
13:30～15:00	「にほんでいきる～外国からきた子どもたち～」 奥山 はるな(毎日新聞取材班)	66名
15:15～16:45	「外国ルーツの子どもと家族にかかわって」 小林 普子(NPO 法人みんなのおうち代表理事)	
11月11日(木)【外国人との共生に向けての課題】		
13:30～15:00	「ヘイトスピーチと対抗報道」 角南 圭祐(共同通信ヘイト問題取材班・広島支局次長)	63名
15:15～16:45	「出入国管理及び難民認定法(入管法)改正をめぐる問題点」 指宿 昭一(暁法律事務所 弁護士)	
11月14日(日)【移住者の困難と支える活動】		
13:30～15:00	「困窮するベトナム人への支援と課題」 吉水 慈豊(NPO 法人日越ともいき支援会代表理事)	49名
15:15～16:15	「ミャンマーの今と難民を生み出す背景」 中西 嘉宏(京都大学大学院東南アジア研究所准教授)	
16:15～16:45	「留学生救援、ミャンマー関西の取組み」 猶原 信男(ミャンマー関西代表)	

### II.調査研究事業

2020 年度から引き続き2021年度も、笹川平和財団の助成を受け、神戸における第三国定住難民支援の実績を踏まえ、「東アジアにおける第三国定住難民受け入れの状況と課題」について調査し、インドシナ難民当事者の方からの寄稿や昨年度の調査研究をまとめた調査報告書を作成しました。

2022年2月23日(水・祝)には、下記の内容のオンラインセミナー「韓国における第三国定住難民(再定着難民)の受け入れ概況とインドシナ難民受け入れ40年を振り返る」を開催し、活動報告も行いました。

講演・報告者	内容	参加者
<b>イ ホテク(国際難民支援団体 避難処 代表)</b>  <b>パネリスト:</b> チャン ソワン ナリット(NPO 法人 外国人支援ネットワーク すたんどばいみー代表) ハ ティ タン ガ(NPO 法人 神戸定住外国人支援センタースタッフ) 平川 孝美(賢明女子学院中学校・高等学校教員) <b>コーディネーター:</b> 中尾秀一(難民事業本部関西支部支部長代行)	<b>韓国における再定着難民(第三国定住難民)の受け入れ～その成果と課題～</b>  <b>インドシナ難民受け入れ40年を振り返る～当事者が感じる日本の難民受け入れ政策の成果と課題～</b>	46名

### Ⅲ.第三国定住ミャンマー難民支援事業(第9陣)

2019年3月に神戸に来られた難民の方たちは、来神して3年目となりました。コロナ禍で様々な不安をお持ちでしたが、神戸での生活も慣れてこられてきたこともあり、必要に応じて家庭訪問を行いました。主には日本語教室などで、書類の記入などのサポートを行いました。

2021年8月、2022年3月と出産が続き、2家族12名となりました。学習が困難な子どもおり、今後も継続した支援が必要だと感じています。

### Ⅳ.コロナ禍で困窮している子どものいる留学生・移民家族の支援事業(Give One・兵庫県共同募金会助成事業)

コロナ禍で子どものいる留学生や移民世帯が困窮していることを受けて、食品や生活用品、学用品などの物資提供を行い、仕事のシフトが回復したり新たな仕事を見つけたりするまでの間、家計の収入減を補う支援を行いました。2021年2月から7月にかけてはGive One助成事業として28世帯に月5,000円相当の物資提供を行いました。その後も支援の継続希望があったため、2021年8月から12月にかけては兵庫県共同募金会「いのちをつなぐ支援活動応援事業」の助成を受けて20世帯に月2,000円相当の物資提供を行いました。

実施の際には留学生スタッフを中心に、各世帯の希望に合わせた物資を車で届けました。またフードバンク等のご協力により集まった食料も随時お届けしました。社会福祉協議会や近隣の小学校、関係団体などにご協力頂き、支援が必要な世帯に情報が周知されるように取り組みました。物資受け渡しの中では相談対応や必要な情報提供も行いました。

支援を行った世帯は留学生、就労者(アルバイト・パート)、求職中、休職中など様々ですが、日本語ができなかったり、多子世帯や母子家庭などで子育てが大変であったりと、仕事探しが思うようにできないという例がありました。12月に活動を終了する段階で継続して支援を必要としていた世帯には、各区の物資提供支援活動を紹介しました。

(Give One助成事業)2021年2月～7月

物資提供世帯内訳28世帯			
内モンゴル3	中国7	ブラジル1	モルドバ1
韓国3(ルーツ含む)	ナイジェリア2	ベトナム3	モンゴル3

コンゴ1	フィリピン2	ミャンマー1	ラトヴィア1
------	--------	--------	--------

物資提供世帯内訳 28世帯		
留学生6	勤務・自営10	無職・求職中12

(兵庫県共同募金会助成事業) 2021年8月～12月

物資提供世帯内訳 (計: 20世帯)			
カメルーン1	韓国3 (ルーツ含む)	コンゴ1	中国2
ナイジェリア2	フィリピン1	ブラジル1	ベトナム3
ミャンマー2	モルドバ1	モンゴル2	ラトヴィア1

物資提供世帯内訳 (計: 20世帯)		
留学生3	勤務・自営9	無職・求職中8

## V. K O B Eランタン縁日2021

2021年10月15日(金)から16日(土)にかけてK O B Eランタン縁日2021を実施し、大小約550個のランタンを大正筋商店街の入り口とK I C C前、ふたば学舎に飾りました。ランタンには日本語教室や学習支援教室の学習者、支援者、子どもたち、地域ボランティアなどが絵付けを行いました。ベトナムのお寺や花、中国の漢字、好きなキャラクターなどの模様を絵の具で描いたり切り絵を貼ったり、文化的背景を活かした絵付けを行いました。当日は色とりどりのランタンが街を彩りました。ふたば学舎2階で開催した親子縁日では割りばし鉄砲、スーパーボールすくい、世界のあそび体験(中国の切り絵、内モンゴルのシャガイ遊び、ベトナムのボードゲーム)、笑い文字、おかし配りのブース企画とステージ企画(マジックショー、二胡とフルスの演奏、チンドンショー)を行いました。親子縁日には2日間で約1,500人の来場者がありました。

今年は神戸国際コミュニティセンター(K I C C)がアスタ1番館へ移転する際のオープニングセレモニーに合わせて、神戸市都市局やK I C C、(株)くにつか、ふたば学舎などと協議を重ね、コラボレーションを計画しました。同日開催を予定していた(株)くにつか主催のローカル&ワールドフェスティバルがコロナで延期となってしまいましたが、共催のふたば学舎をはじめK I C C、新長田まちづくり(株)、アスタくにつか神戸市保留床テナント会等のご協力により成功裏に実施することができました。資金面では神戸市の「協働と参画」推進助成を受けたほか、協賛「ランタンサポーター」として6社・個人のご協力を頂きました。当日の運営は大学生や地域の方々など多くのボランティアの協力を得られました。

この事業で作成したランタンは東急プラザ(2021年11月)や神戸国際コミュニティセンター(K I C C)(2021年12月)、新長田大橋地下道(2022年2月・3月)でも展示しました。来年度も人々の縁をつくり、街を元気づけ、賑わいを生み出すコンテンツとして継続して実施する予定です。

## VI. 第二創業事業「ばいゆー 地域をつなぐ共生社会へのWebサイト」(2021年10月開設)

新たな取り組みとして、生活に役立つ情報や相互理解、協働に関わる記事を多言語で投稿するホームページを作り、取材や執筆を進めました。コロナの影響で外部への取材が思ったようにできませんでしたが、ふたば国際プラザやランタン縁日、ウクライナ難民支援活動など実際に展開している事業に関する記事も含め、定期的に記事を更新するよう取り組みました。2022年2月からは大学生アルバイトスタッフも迎えて、力を入れています。既存事業を補完しつつ、支援や相互理解、協働の輪が広がるように今後取り組んでいきます。

＜2021 年度投稿記事数＞

役立ち情報：10 相互理解：8 協働：8

## VII. 定住外国人子ども奨学金実行委員会の事務局運営

今年度も引き続き事務局を引き受け、以下の活動を行いました。

コロナ禍のため、イベントやコンサートはすべて中止となり、年 3 回の面談はオンラインなども活用しながら実施しました。対面でのコンサートの代替事業として、オンラインコンポジウムを開催し、遠方の方にも参加していただくことができました。しかし、これまでのチャリティコンサートのような参加人数や寄付を獲得することは難しく、今年度はこれまでに初めての赤字となり、来年度は定時制 4 年生となる奨学生もあり、人数が増加するため、新たな取り組みを検討していきたいと考えています。

また奨学生には、年末のお楽しみ会に参加してもらい、同じような背景を持つ小・中学生との交流も行ってもらいました。

第 15 期生の募集には、神戸市内の中学校全校への募集要項配布したことやコロナ禍の経済的困窮状況などの背景からか、21 名もの応募がありました。来年度は、ニーズに応えていけるよう、安定した収入の獲得に取り組んでいきます。

### 3 月 1 日～3 月 31 日 第 14 期奨学生募集

応募 7 名（うち 1 名は提出期限過ぎて申請書が届いたため、面接せず）

面接 6 名（中国 3、ブラジル、ナイジェリア、アメリカ）

決定 3 名（中国 2、アメリカ 1）

11 月 21 日（土）オンラインコンポジウム開催 参加約 80 名

3 月 1 日（月）～3 月 30 日（水）第 15 期奨学生募集 21 名の応募あり。

ニュースレター発行 年 3 回発行